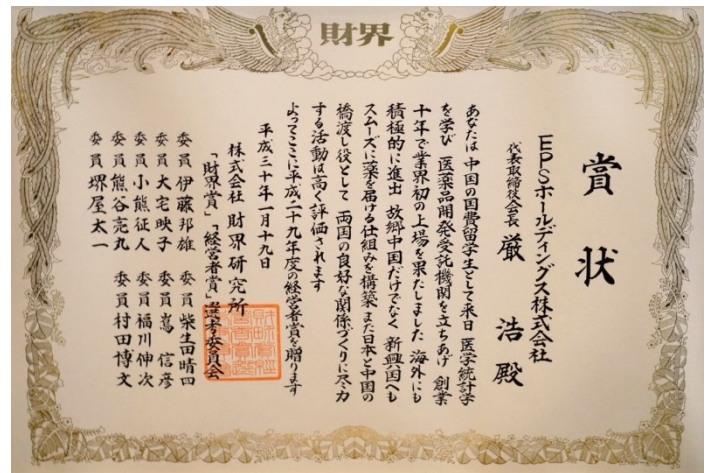


EPS グループ 巖浩会長が日本『財界』誌「経営者賞」を受賞

2018年1月19日

益新集団広報渉外チーム

1月19日、株式会社財界研究所が主催する平成29年度の「財界賞」「経営者賞」の贈呈式がパレスホテル東京で行われ、EPS ホールディングスの巖浩会長は「経営者賞」の受賞者として式典に招待されました。日本経済団体連合会会長の榊原定征さんが「財界賞」、フューチャー会長兼社長グループ CEO の金丸恭文さんが「財界特別賞」、また住友林業会長の矢野龍さん、西武ホールディングス社長の後藤高志さん、伊藤園会長の本庄八郎さん、サイバーエージェント社長の藤田晋さんもそれぞれ「経営者賞」に輝きました。式典では、司会者から受賞者の紹介と受賞理由の説明の後、作家の堺屋太一さんから受賞者に賞状が手渡され、日本経済同友会代表幹事の小林喜光さんから祝辞が述べられました。式典に財界、経済界から約1,000名が出席しました。



『財界』主幹の村田博文さんは巖浩の受賞理由を紹介する際に、中国改革開放後最初に日本にきた留学生として、山梨大学で学び、その後東京大学大学院に進んで統計学を学んだ巖浩が、1991年に創業し、日本で始めて新薬開発の臨床試験に不可欠な専門サービスを提供し、EPSを日本最強のCRO企業に育て上げたこと、また、在日華僑華人企業家達と日本中華總商会を作り、日中間の橋渡し役として多大な貢献をして来ましたと評されました。

巖浩は受賞スピーチの中で、日本には社会のために黙々と専門サービスを提供しているB2B型の企業が数多く存在しますが、EPSのような企業にこのような素晴らしい賞を頂けることを至極光栄に存じ、今後もグループ社員と共に一層努力し、健康産業の発展に更なる貢献をしていきたいと述べました。

広く日本経済を牽引した有力財界人を表彰する財界賞・経営者賞は、「経営者にも文壇の芥川賞、直木賞のような賞があるべき」との『財界』誌創業者・三鬼陽之助氏の思いから始まり、財界賞は『財界』創刊の昭和28年度に、経営者賞は昭和30年度に創設されました。

財界賞・経営者賞は「百万人行かずとも我行かん」「この日本国を蘇生させる」というスピリッツを

持つ財界人、産業人を独自の視点で表彰されてきました。卓越した経営手腕と同時に、社会に資する倫理観、美意識を兼ね備えた人物を『財界』誌は今後も発掘していく方針としています。

平成 29 年度の財界賞経営者賞選考委員会は著名な経済学者、評論家、教育者およびマスコミ関係者の 9 名から構成され、選考基準は新しい情勢のもとで「広く日本経済を牽引した経済人」「顕著な業績を残した経営者」としています。選考委員達は厳浩会長を「臨床検査分野で新たな風を吹き込み、社会の進歩に多大な貢献をした」「中国と日本の架け橋として華僑の中心的役割も果たしている」「経営能力、人間性ともに申し分のない人物」と口を揃えて評価しています。作家の堺屋太一さんは「次世代経営者」、元通商産業省事務次官の福川伸次さんは「華人パワーの代表、野心的な事業家であり、日中協力の一つのモデル」と評しています。また、日中関係が微妙な時期に「日中友好に向けて縁の下の力持ち的な存在になって」「新たな時代を切り拓く旗手として」の期待も寄せられました。